

学級活動指導案

日時 平成21年6月5日(金) 第1校時
対象 3年2組(男子20名・女子20名)計40名
指導者 教諭 今村道代

1 テーマ 「球技大会を成功させよう」

2 学習指導要領との関連

活動内容 (1) 学級や学校の生活づくり

ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

3 テーマ設定の理由

近年、インターネットや携帯電話などの急速な普及によって、社会状況が変化し、世の中には様々な情報が溢れ、だれもがその情報をいつでも、どこでも簡単に入手することが可能になってきた。しかし、この便利な環境の影に、人間関係の希薄さが生じていることが問題になっている。このような問題を改善するため、望ましい集団活動を通して、他とよりよい関係を築く力が必要とされている。また、このような力を身に付けるためには、豊かな人間関係を築くための心の豊かさと、コミュニケーションスキルを身に付けることが必要である。そのために、まずは自己と他者とを比較したり、重ね合わせたりすることによって自己を知り、集団の中で自己を生かそうとする意欲をもたせることが大切であると考えた。また、他者を認め、受け入れてこそ豊かな人間関係が築けるということを実感させるためには、学校・社会の一員としてよりよく生きていこうとする意欲を高めることやコミュニケーションスキルを身に付けさせる活動を、日常的に行っていくことも必要であると考えた。

本テーマ「球技大会を成功させよう」は、ユニット「友愛」の終末に当たる。ユニット「友愛」は、一日遠足、設営コンクール、球技大会から成り、生徒は一日遠足で仲間との連帯感を深め、設営コンクールでは学級への所属感を深め、徐々に互いの個性に気が付き始めている時期である。そこで、今回の球技大会では、球技大会の目標に向かってそれぞれが個性を生かし、学級の一員としての役割を果たすことによって、達成感や満足感を得ながら友情を深めたり、この学級でこれからも頑張っていこうという意欲をもたせたりすることをねらいとしたい。

本学級の生徒は、明るく元気で活発な生徒が多い。また、行事に対しても意欲的で、中学校生活最後に最高の思い出を残したいという思いを強くもっている。しかし、球技大会に向けて、技能に対する自信のなさから、消極的な態度を見せる生徒も見られる。

そこで、このような生徒も球技大会の目標を達成できるためにはどうすればよいのかを考えさせる活動を通して、個性を生かしながら、学級の中での自分の役割を果たそうという意欲をもたせたい。また、技能に対して自信をもっている生徒も、自信のない生徒の気持ちを理解し、どのように接していけばよいのかを考えさせたい。そして、学級としての団結力を高めるとともに、他とよりよい関係を築くための考え方や方法を身に付けさせたいと思い、本テーマを設定した。

4 指導目標

- (1) 他者を理解し、互いの個性を認め合い、よりよい人間関係を築こうとする態度を身に付けさせる。
- (2) 自分の思いや考えを表現し、伝えようとする態度を身に付けさせる。
- (3) 自分や集団の目標を実現するために、自分の役割を考えて行動しようとする意欲を高めさせる。

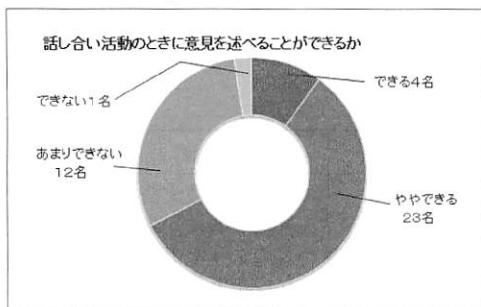
5 指導計画（全4時間）

ユニット	区分	ねらい及び主な生徒の活動	指導上の注意点
友 愛 （球 技 大 会	学活 1 （本時）	<p><テーマ> 球技大会を成功させよう①</p> <p><ねらい> 球技大会を通して、なりたい自分をイメージさせると共に、なりたい学級の姿をイメージさせる。</p> <p><主な生徒の活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ランキングの方法を用いて、学級の目標を達成するために、チームとして必要な条件を考える。 ・ 自分がチームの中で、どのような役割を果たすべきかを、今までの球技大会での様子を振り返りながら考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校内球技大会について、これまでの経験を基に、課題点を振り返らせ、どのようなチームになることが必要なのかをランキングの方法を用いて考えさせる。 ・ これまでの自分や集団の取組はどうだったか振り返らせる。 ・ これからの活動にどのように生かせるか考えさせる。
	道徳 1	<p><主題> 信頼・友情</p> <p><指導項目・ねらい> 2 (3)</p> <p>真の友情や互いに信頼し合うとはどのようなことなのか理解を深め、互いの友情を一層確かなものにならうとする態度を育成する。</p> <p><資料名> 「バレーの練習」</p> <p><あらすじ></p> <p>球技大会のバレーボールの練習が始まったが、いざ始まってみると、上手な人とそうではない人との気持ちのずれが生じてくる。そんなときの練習の一場面において、バレーボールが上手にできない生徒の本音がぶつけられる。</p> <p>→道徳年間指導計画 道徳3年12ページ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ クラスマッチに向けての活動を始める前に立てた学級の目標（なりたい姿）を思い出させることによって、理想の姿を確認させる。 ・ 学級で決めた目標を再確認した上で教師が学級に目指して欲しいことを伝える。
	学活 2	<p><テーマ> 球技大会を成功させよう②</p> <p><ねらい> 学級運営委員を中心に、球技大会の練習における課題を焦点化し、作戦を練り直させ、練習に取り組ませることによって、今後の練習の充実を図る。</p> <p><主な生徒の活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学級運営委員を中心に、スケーリングの方法を用いて、これまでの練習を振り返り、学級の課題を焦点化する。 ・ 出てきた課題を基に、チームごとに分かれて作戦を練り直し、練習に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学級運営委員とチームリーダーに、練習における課題を基に、練習計画を作成させる。 ・ チームリーダーを中心に、これまでの練習の取組を反省させ、作戦や練習内容を練り直させ、今後の方向性をもたせる。 ・ 目標とする自分や学級の姿を意識させ練習に取り組ませる。
		球 技 大 会	
学活 3	<p><テーマ> 球技大会への取組を振り返ろう</p> <p><ねらい> 今回の球技大会への取組を振り返らせることによって、自分たちや学級全体の成長を実感させ、学級への所属感や連帯感を深めさせる。</p> <p><主な生徒の活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スケーリングの方法を用いて、活動前の目標やその後の取組状況から、自分や集団の変容を深く見つめることによって、自分の学級への所属感や連帯感の高まりを実感する。 ・ 視点を基にこれまでの取組を振り返り、文章でまとめることによって、学級の和をさらに深めようとする意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スケーリングの方法を用いて、これまでの取組における自分や集団の変容を深く見つめさせる。 ・ 自分の目標としていた姿を振り返り、その姿に近づくことができたかどうかをグループ内で相互評価させる。 ・ 視点を基にこれまでの取組を振り返らせ、文章でまとめさせることによって、学級の和をさらに深めようとする意欲を高めさせる。 	

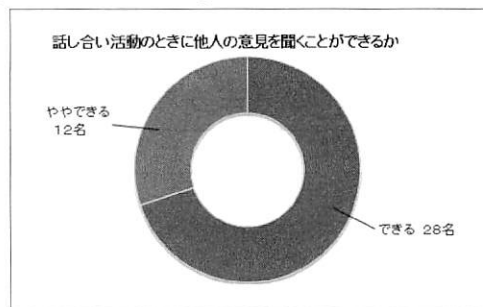
6 生徒の実態

【事前アンケートの結果】（H21.5.15実施 対象：3年2組 40名）

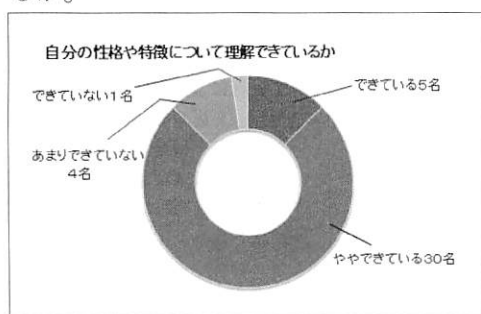
(1) 話し合い活動のときに、意見を述べる
ことができるか。



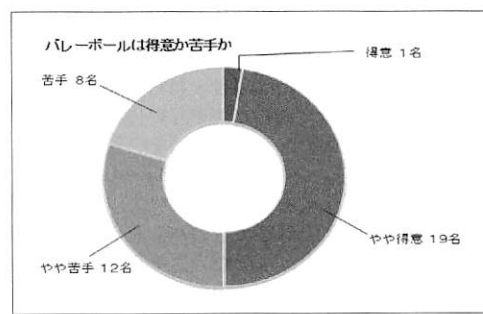
(2) 話し合い活動のときに、他人の意見を聞く
ことができるか。



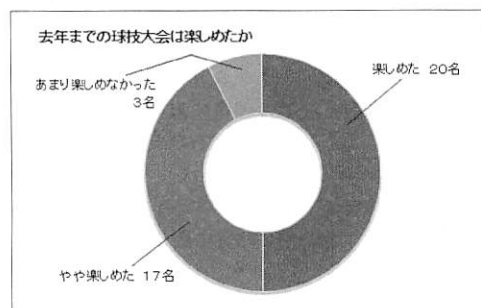
(3) 自己の性格や特徴について理解できて
いるか。



(4) バレーボールは得意か苦手か。



(5) 去年までの球技大会は楽しめたか。



(6) 球技大会に向けての目標

〔得意・やや得意と答えた生徒〕

・優勝（17名） ・みんなで楽しむ（2名） ・技能向上（1名）

〔苦手・やや苦手と答えた生徒〕

・優勝（8名） ・みんなで楽しむ（4名） ・1勝はする（1名）
 ・パスをつなぐ（2名） ・技能向上（2名） ・もっと仲良くなる（2名）
 ・全員が納得できる結果を残す（1名）

【考察】

(1)の結果から、これまで活発な話し合い活動を促す方法等を取り入れてきたことによって、多くの生徒は自己の意見を述べるようになってきていることが分かる。そして、(2)

の結果から、他人の意見を傾聴する態度も身に付いてきていることも分かる。以上のことから、生徒は他人の意見を聞いて、自己の意見と比較することに対して楽しみを感じており、主体的に話し合い活動に参加できているようである。

また、(3)の結果から、これまで自己を見つめさせる活動を取り入れてきたことによって、生徒は、自己理解を深めていると認識していることが分かる。しかし、普段の生活においては、客観的に自己を見つめることがやや不足しているのではないかと思われる言動が見られる。

本学級の生徒は、球技大会の種目であるバレーボールに対して、(4)の結果から、どちらかという得意だと思っている生徒と、苦手だと思っている生徒が約半数ずつであることが分かる。ところが、昨年、一昨年に行った2回の球技大会では、ほぼ全員が楽しめたと思っていることが(5)の結果から分かる。しかし、「やや楽しめなかった」と答えた生徒の理由を見てみると、「うまくボールを送れないから」と技能に対して自信がもてていなかったり、「仲のよい人同士だけで楽しんでいて、その中に入れなかったから」や「ボールがあまり自己のところに回って来なかったから」とチームの雰囲気にも不満をもっていたりしたことが分かる。また、球技大会に向けての目標について(6)の結果から分かるように、得意な生徒と、苦手な生徒の考えの違いがはっきりと表れた。得意と答えた生徒の85%は「優勝」を目指しているが、苦手とする生徒は40%しか「優勝」と答えておらず、楽しむことや、仲間意識を高めること、精一杯努力することに重きを置いていることが分かる。

このことから、学級としてどのようなチームを目指していくのかを考えることによって、互いの意識や考えの違いが表れ、自他に対する理解を深めることができる。そして、学級として今後どのような取組を行っていけばよいのかということが明確になり、学級の一員として自己の役割を考えながら行動しようとする意欲が高まると考える。

7 本時の実際

(1) 本時の目標

- ア 球技大会における学級の目指すチーム像と自己を比較したり、重ね合わせたりする活動を通して、自己理解を深めさせる。
- イ 自己の思いや考えを表現し、伝えようとするを通して、互いの個性を認め合い、他者を理解しようとする態度をはぐくむ。

(2) 研究との関連

- ア 学校行事を核に、学級活動と道徳の関連を図った指導計画（新附属ユニットプラン）〔特別活動論文Ⅲ－3－(1)〕

球技大会への取組は、1st「互いを励まし合い、望ましい人間関係の基礎をつくる段階であるユニット「友愛」の終末に当たる。これまで、一日遠足や設営コンクールで深めてきた連帯感や所属感を生かし、それぞれの個性を発揮して球技大会に向けた取組を行わせることによって、望ましい人間関係の基礎づくりをさせる。球技大会に関するユニットは学級活動3時間、道徳1時間で計画し、学級活動は事前に2時間、事後に1時間を行う。本時はユニットの1時間目に当たり、球技大会に向けて、学級全員が自他のよさを認め、そのよさを生かしていこうとする意欲を高めさせることをねらいとした。本時を受けて、道徳では、「信頼・友情」を価値としておき、

本時の「他者理解・自己理解」を生かせるように構成している。

イ 自他の比較や重ね合わせにより、自己理解を深める工夫〔特別活動論文Ⅲ－１－(1)〕

自己理解を深めるためには、自己と他者とを比較したり、重ね合わせたりすることが必要である。本時では、目指すチーム像を架空の他者とし、そのチームに近づくためには、どのようなことが必要かということを考える活動を通して、他者の考えに触れ、他者を理解させたい。また、自己と他者とを重ね合わせることによって自己理解を深めさせたい。

ウ 話し合い活動を活性化させるための工夫〔特別活動論文Ⅲ－２－(1)〕

「目指すチームとはどのようなチームなのか」を考える活動において、ランキングの方法を用いることにした。この方法を用いることによって、個の価値観が明らかになり、多様な意見が出やすくなると考えた。そして、その意見の違いを比較しながら話し合うことによって、話し合い活動がより活発になると考えた。

エ リーダーシップやフォロアーシップを培うために効果的な集団編成の工夫〔特別活動論文Ⅲ－２－(1)〕

本時は、生徒による学級会活動の形式で進めていく。そこで、各班に学級運営委員を一人ずつ配置し、班の中でリーダーの役割を務めさせることにした。その際、リーダーには事前に話し合い活動の留意点や進め方を理解させ、話し合い活動が円滑且つ、活発に行われるようにさせた。このような経験を重ねることによって、リーダーはリーダーシップを発揮できるようになり、またフォロアーもリーダーの働きかけを受けとめ、クラスのために貢献しようという意欲が高まってくると考えた。

オ 自己や集団の取組を振り返らせる工夫〔特別活動論文Ⅲ－１－(2)〕

話し合い活動を通して、理想とするチーム像をはっきりともたせた上で、本時の終末に過去2年間の球技大会における自己の取組を振り返らせることによって、自己を見つめ、今年の球技大会に向けての目標や具体策に気付くことができると考えた。そこで、本時の終末に、自己を振り返り、自己の役割を明確にししながら、今後の活動への意欲をもたせる時間を設けた。

(3) 事前の活動とその指導

日 時	〈活動の場〉 活動の主体	活 動 の 内 容	指 導 ・ 援 助 の 留 意 点
5/19(火)	〈放課後〉 学級運営委員	・ 5日の学級活動の内容と進め方についての打合せ	・ 学級活動の内容と話し合い活動の進め方についての見通しをもたせる。
5/26(火)	〈放課後〉 学級運営委員	・ 球技大会の練習状況の確認とアンケート作成	・ 球技大会の練習状況について話し合い、アンケートを作成させる。
5/28(木)	〈放課後〉 学級運営委員	・ アンケートの実施とその集計	・ アンケート結果を集計し、今後の活動について見通しをもたせる。
6/2(火)	〈放課後〉 学級運営委員	・ 話し合い活動の班編成と球技大会の学級目標の案の作成	・ アンケート結果を基に話し合い活動の班編成をし、球技大会の目標の案を作成する。
6/4(木)	〈放課後〉 学級運営委員	・ 活動内容と進め方の確認と準備	・ 学級活動の内容と話し合い活動の進め方についての見通しをもたせる。 ・ よりよい活動になるよう留意点の確認や資料の準備をさせる。

(4) 本時の展開

過程	活動の内容	時間	形態	教師の指導・援助	準備・資料
導入	1 本時のテーマと活動の流れを確認する。 (教師)	1	一斉	・ 中学校生活最後の球技大会であることを意識させ、活動に対する意欲を高めさせる。	テーマカード
	2 球技大会の目標と本時の議題を確認する。 (司会者) 〈学級目標〉 みんなでボールをつないで優勝しよう。 〈議題〉 みんなでボールをつないで優勝するためには、どのようなことが必要なのだろうか。	2	一斉	・ 司会者に、アンケート結果を基にして決めた目標を確認させる。 ・ 司会者に、目指すチーム像になるためには、何が一番必要なことなのかランキングの方法を用いて決定していくことを、学級全体に確認させる。	目標カード 議題カード 項目カード
展開	3 目指すチーム像になるためには、どのようなことが必要かを考えるための5つの項目を確認し、個人でその項目に順位をつける。(司会者)	5	個	・ 司会者に、アンケートに基づいて出された5つの項目を確認させ、個人で順位を付けるように指示を出させる。	アンケート結果 ワークシート
	4 班で個人の考えを確認し、班としての順位をつける。 (班長) 〈項目〉 A 苦手な人も楽しめること B 上手な人が活躍できること C 全員で声を出すこと D 最後までボールを追いかけること E 失敗してもめげないこと	15	班	・ 班は、アンケート結果等に基づき、主にバレーボールが得意か、不得意かという観点で分けておき、それぞれを混合して5人ずつの班をつくっておく。 ・ 個人の考えを基に、グループで話し合わせる。話し合い活動が充実するように、学級運営委員をリーダーにして話し合い活動を進めさせる。 特別活動論文 III-1-(1) 自他の比較や重ね合わせにより、自己理解を深める工夫 ア 他者をモデルとし、自己と他者を比較したり、重ね合わせたりすることによって、自己を深く理解する活動 特別活動論文 III-2-(1) 話し合い活動を活性化させるための工夫 イ 活発な話し合いを促す方法の導入	小黒板 項目カード
	5 班で決まった順位を小黒板を使って発表し、意見の違いについて話し合う。(司会者)	10	一斉	・ 司会者は多様な意見が出るように、順位の異なるところを中心に話し合いをさせ、順位を決めさせる。 ・ 教師は、話し合い活動がうまくいっていない班に入り、助言を行う。 ・ 司会者は順位とそうように考えた理由を発表させ、互いの考えを比較させながら、それぞれの価値観を表出させる。	
	6 球技大会の目標を見直す。(司会者)	5	一斉	・ 司会者は全員に学級目標を見直させ、その目標を目指していこうという意志を確認させる。	
	7 話し合い活動の内容をまとめ、確認する。(司会者)	5	一斉	・ 司会者は話し合い活動を通して出された意見や価値観をまとめ、確認させる。	
終末	8 本時を通して、今後の活動にどのように取り組んでいきたいかについて視点を基にまとめ、発表する。(教師) 〈視点〉 ・ 授業を通して気付いた、学級における自分の役割は何か。 ・ これまでの自分や集団の取組状況はどうだったか。 ・ これからの活動にどのように取り組みたいか。	5 2	個 一斉	・ 視点を基に、今日の活動を通して、今後の活動にどのように取り組んでいきたいかをまとめさせ、発表させる。 特別活動論文 III-1-(2) 自己や集団の取組を振り返らせる工夫 ア 自己の取組を振り返らせる活動 ・ 活発に話し合い、解決していくことよきふれ、本時話し合い活動を通して考えた自分の役割を果たそうとする意欲を高めさせる。	ワークシート

(5) 事後の活動とその指導

日 時	〈活動の場〉 活動の主体	活 動 の 内 容	指導・援助の留意点
6/9(火)	〈放課後〉 学級運営委員	・ 練習がより充実してきたかを話し合い、今後の取組を確認する。	・ これまでの頑張りを賞賛することによって自覚と意欲を高め、課題があれば改善策を考えさせる。

(6) 評価

ア 球技大会における学級の目指すチーム像と自己を比較したり、重ね合わせたりする活動を通して、自己理解を深めることができたか。

イ 自分の思いや考えを表現し、伝えようとするを通して、互いの個性を認め合い、他者を理解しようとすることができたか。